

写真展 福島、東北

2022年度福島県立博物館冬の企画展



岩波 友紀 [紡ぎ音 #078請戸の田植踊] (個人蔵)

岩波友紀氏は、全国紙写真部での報道写真の撮影を続け、東日本大震災での撮影を機に福島に移住。福島、東北で撮影を続け、ドキュメンタリー写真のリアリティーにアート力を重ねる試みが高く評価されています。現在は会津美里町に移り、被災地を含めた福島を俯瞰的に見つめています。

東日本大震災ではこれまでの災害とは異なるさまざまな対応が見られました。

その一つが膨大な画像が残され、それらが広く拡散されたことです。阪神淡路大震災の頃にはまだ普及していなかったスマートフォンやSNSがこの現象の基底にあるのは言うまでもありません。また、被害状況を記録し伝える報道写真の精度も上がり、被災地に向き合った写真家の中からは被災の現状を超えて、被災地の歴史文化、人々の生活、さらには命のつながりを見つめるすぐれた作品が残されました。

震災からまもなく丸12年。風化、忘却が確実に進行する中、それでも震災体験から得た思考、感覚を磨き続け永遠に残る作品が生み出されています。

本展では、震災直後から現在も福島を拠点に福島を見つめ続け、普遍的な作品を精力的に制作し、近年高い評価を得ている3人の写真家、岩根愛、岩波友紀、村越としや各氏の作品をご紹介します。



村越 としや [2016年 福島県須賀川市] (福島県立博物館蔵)

村越としや氏は、須賀川市に生まれ、現在は拠点のある東京と実家のある須賀川を往復しながら、福島の一見何気ない風景を撮り続け、人の思考や認識による風景の変化と矛盾を写真を通して問いかけています。モノクロの作品は静謐さの中に、土地に漂うある種の不穏な気配を写しとっているかのようです。

岩根 愛 [A NEW RIVER] (個人蔵)

岩根愛氏は、1991年渡米しオフグリッドの暮らしの中で学び、その後写真家として活動。2006年よりハワイと福島の関わりをテーマに制作。震災後双葉町の盆踊りと出会い、三春町にも拠点を構えながら、地域を超えた人の交流を追いかけています。近年の作品は自然と人間が一体化した大きな生命力を捉えています。

会期 / 2023年1月21日(土) ⇒ 3月19日(日)

主催: 福島県立博物館 会場 / 福島県立博物館企画展示室

開館時間 / 9:30~17:00(入館は16:30まで) 休館日 / 月曜日 2月24日(金)

観覧料 / 一般・大学生800円(640円)、高校生以下は無料 ※()内は20名以上の団体料金、企画展料金で常設展もご覧いただけます。

年間パスポート: 2,000円 *ご購入日より1年間、当館の常設展・企画展を何回でもご覧いただけます。

Twitterで「あなたの福島」が集まった「福島写真美術館」をつくらう!

福島県立博物館公式Twitterアカウントをフォローして、「#福島写真美術館」をつけてあなたにとっての「福島」の写真を投稿してください。投稿の際には、写真のタイトルとコメントも添えてください。博物館公式Twitterでリツイートいたします。

写真家たちが捉えた風土／震災

写真展 福島、東北

2022年度福島県立博物館冬の企画展



千葉 禎介 [春さん 大雄村]

震災後、被災状況ではなく、東北の魅力、特徴を広く世界に紹介する展覧会が国際交流基金によって行われました。2012年春から始まった世界各地での巡回展は、2014年の福島県立博物館、遠野市立博物館での一時里帰り展を挟んで43カ国74会場を巡回。2021年国際交流基金のご厚意により10作家123点の作品が福島県立博物館に寄贈されました。

これらの作品は多面的な東北をテーマにしているとともに、日本を代表する写真作品の優れたコレクションでもあります。2014年以来久しぶりにその一部をご覧ください。

福島県立博物館では、震災遺産の収集をはじめ、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓を伝え、その後の復興を支援する活動を続けています。本展もその一環として、みなさまに福島、東北の魅力と歴史をお伝えしたいと思います。

■本面掲載作品は全て国際交流基金寄贈
(福島県立博物館蔵)



田附 勝 [鹿撃たれる]
岩手県釜石市2009年11月



大島 洋 [《幸運の町》小岩井牧場]



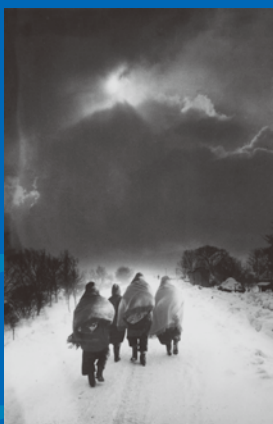
島山 直哉 [気仙川] 2003年8月23日



津田 直 [夜ノ森駅、福島 フィールドノート]
(縄文遺跡・男鹿半島・夜ノ森)



林 明輝 [ブナの森の緑の映り込み]



小島 一郎
[つがる市稲垣付近]



内藤 正敏
[羽沢仏・梵天帝釈両部大
日大霊権現 (大日坊)]



仙台コレクション
[道 Sendai Collection Vol.1]



芳賀 日出男
[羽山ごもりの「田植え」行事]
福島県福島市松川町

■アーティストトーク 「3人が捉えた福島／震災」

日時:1月21日(土)13:30~14:30
会場:福島県立博物館 企画展示室
講師:岩根愛氏(写真家)、岩波友紀氏(写真家)、村越としや氏(写真家)
参加費:要企画展チケットまたは年間パスポート
定員:20名(要申込・先着順)
*12/21より申込受付

■学芸員による展示解説会「写真展 福島、東北」

日時:2月25日(土)13:30~15:00
会場:福島県立博物館 体験学習室
講師:小林めぐみ(当館学芸員)、川辻安直(当館専門員)
参加費:無料
定員:30名(要申込・先着順)
1/25より申込受付

■アーティストトーク 「私の場合」

日時:3月12日(土)13:30~15:00
会場:福島県立博物館 体験学習室
講師:島山直哉(写真家)
参加費:無料
定員:30名(要申込・先着順)
2/12より申込受付

*いずれも電話(0242-28-6000)かメール(general-museum@fcs.ed.jp)、受付カウンターでお申込みください。メールでお申込みの際は、①イベント名、②参加者氏名、③電話番号をご記入の上、お送りください。

 福島県立博物館
Fukushima Museum

●申込・お問合せ 〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25
tel:0242-28-6000 fax:0242-28-5986
e-mail:general-museum@fcs.ed.jp
http://www.general-museum.fcs.ed.jp/

●会津若松駅から約3km タクシーで約10分
●会津若松駅から
まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)



*新型コロナウイルス感染症の状況により予定が変更になる場合があります。*ご来館の際は感染症対策にご協力ください。体調に不安がある場合はご来館をご遠慮ください。なお、混雑時には入場を制限する場合があります。

写真家たちが捉えた風土／震災